



☆群馬県がん患者ミーティング2011開催しました

平成23年11月26日(土) 13:30から、群馬県健康づくり財団において「群馬県がん患者ミーティング2011」が開催されました。

参加者は52名で、会場もほぼ満席になりました。

本田会長が、これまで4年半がん連協が取り組んだ様々な活動や昨年末に制定された群馬県がん対策推進条例について触れ、発足当初は困難と思われていたがんサロンの役割を果たす場が増え、患者会の皆さんが活躍していることを頼もしく思う…とがん連協の成長や支えてくれた人たちに感謝を述べました。

恒例となった群馬混声合唱団は発声練習の後、365歩のマーチを合唱し、気持ちもほぐれたところで、リレートークに移りました。

今回のテーマは「がんに負けないために 一体験者・支援者からの提言」です。群馬県立県民健康科学大准教授、狩野太郎先生の進行で、伊勢崎ひまわりの会 板垣弘美さんによる『体験を活用したボランティアの報告』からスタートしました。板垣さんは現在、伊勢崎市民病院のサロンで中心的役割を担っています。患者さんと医療関係者で協力して運営する和やかなサロンの様子がわかりました。

ひまわりの会 原陽子さんは『がんと向き合うー私の役割とこれからー』というテーマで、ご自身ががんとなり、心の葛藤や不安などとともに、家族や仲間、多くの人に支えられていることに気づき、これから同じ病気の人への力になりたいと前向きにお話されました。

群馬ホスピスケア研究会の阿藤悦子さんは『がんと共に生きる本人と家族を支える緩和ケア』をテーマに医療従事者として緩和ケアの現場にいる中で、どのように患者さんと向き合い、学んだことや大切なことを実際にふれあった人たちとの経験からお話されました。

交流茶話会は各テーブルともにぎやかに話が盛り上がり、充実した時間を一緒に過ごすことができました。名残惜しくはありましたが、「見上げてごらん夜の星を」を合唱した直後に会うことを約束して、ミーティング2011を終了しました。



体験を通してわかったこと、取り組んできたこと...

貴重な話の数々に耳を傾け、共感し、自分は何ができるか、参加者が考えることができました。



初めて会ったばかりでも打ち解けて話せる交流茶話会。みんなですべて話したいです...

☆ 寄せられたアンケートを紹介します ☆

♪先進医療の話を知りたい。♪もっと色々な方の体験談を知りたい。♪交流茶話会楽しかったです。みなさんでお話できる機会がまたあったらいいです。♪みなさんと共に支え合えよう。♪がん患者のひとりです。病気になったけれどがんばっています。食生活、漢方、免疫療法のことなど、話し合ったり生きる希望の話を知りたいです。♪ナースとして参加しました。患者さんのパワーをもらいました。これから患者さん、家族のためにがんばります。♪体験者の話を聞き、力強く生きていこうと思った。今回参加して良かった。♪たいへん良いお話をお聞きして感動しました。これから生きるための指針にしていきたい。♪体験発表、各がんの専門知識、緩和ケアの実際などを聞きたい。

ご協力ありがとうございました。

☆県立がんセンターと意見交換会を行いました

平成23年11月21日（月）午後2時から、県立がんセンターにおいて、緩和ケア病棟に関するがん患者団体との意見交換会が行われ、当協議会からは本田会長、土屋副会長、岡庭監事、根岸企画委員が参加しました。

県側からは福田院長、柳田医療局・乳腺外科部長をはじめとする緩和ケア病棟設立準備委員会の方々に参加し、和やかな中にも充実した意見交換が2時間半にわたり行われました。

現在、太田館林保健医療圏域には緩和ケア病棟が設置されておらず、今後、基本構想を策定し、緩和ケア病棟（25床）を整備していく予定ということです。

患者会からは

ハード面

- 窓は低く、外景がよく見えるように
- 家族室は6畳はあった方がよいこと（患者も一緒に泊まる）
- ボランティアルームを作る

ソフト面では

- ボランティアも緩和ケアチームの一員とする（ボランティアがいると看護師さんたちが自分達の職務に専任できる）
- 音楽療法士やアロマセラピーなど患者の要望があれば代替療法も出来るような体制。

などがありました。これまでの長年の活動や経験を通して患者会からはたくさんの要望がありますので、今後、群馬ホスピスケア研究会を中心に調整し、関係機関に提言できるようにする予定です。

「がん対策応援団」を募集します

—国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」の募集について—

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、がん患者、ご家族、市民のそれぞれの立場から、わが国のがん対策についてがん対策情報センターへ提言、またがん対策にかかわる情報を周囲のみならず広くに広報していただく、いわば「がん対策応援団」の役割をしていただく『患者・市民パネル』のメンバーを募集します。

【主な活動の内容】

メールやインターネットを通じた活動が主ですが、会議への出席をお願いすることもあります。●問題や取り組みへの意見、調査への回答 ●がん対策にかかわる活動（講演会等の案内など）の広報 ●パンフレットやウェブページの情報の見やすさ、わかりやすさなどのチェック ●意見交換会等の会議への出席（交通費を支給します）

■応募資格

がん対策への関心・熱意・見識を持ち、次の4つの条件をすべて満たしていることが必要です。

- 1) がん患者、もしくはがん経験者、または現在もしくは過去においてがん患者の家族、介護者、がん患者のサポートに携わったことのある方、もしくは携わろうとしている方
- 2) がん対策情報センターの活動を理解し、医療専門家と患者・一般市民の双方の立場を踏まえた活動ができる方
- 3) 多様な人々とうまくコミュニケーションをとれる方、調整できる方
- 4) 単独または、家族の支援により、インターネット・パソコン・電子メールを使うことができる方

詳しくは募集案内をご覧ください。

■詳細および応募方法 詳細および応募方法についてはがん情報サービス (ganjoho.jp)より、「患者・市民パネル」募集案内、および応募フォームをご覧ください。応募の締め切りは平成24年2月20日（月）（当日消印有効）です。

問い合わせ先

国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル事務局」

E-mail: Panel-oubo@ml.res.ncc.go.jp / FAX: 03-3547-8577

電話（平日[土日祝日を除く]10時から15時）: 03-3542-2511（代表）内線 5686



県立がんセンター 福田院長のあいさつ。長時間の意見交換でしたが、患者、医療機関、それぞれの経験から熱心な意見交換が行われました。



・・・編集後記・・・

年末、万座温泉に行き、雪みれのタヌキのように露天風呂に浸かりました。ふと、ミニ雪だるまを何個か作って置き、時間をあけて改めて入ると、違う場所に雪だるまが増えていました。会話なきコミュニケーションに対して少し暖かい気持ちになり、また、せっせと雪だるまを作りました。

編集担当 荒木 美保



【事務局】

〒371-0005

群馬県前橋市堀之下町16-1 群馬県健康づくり財団 総務部内

電話 027-269-7811 FAX 027-269-8928